

ランチオンセミナー35

日本人2型糖尿病の特徴と治療戦略 腹部脂肪分布の観点から

日時

2013年5月17日(金) 11:50~12:40

会場

ホテルニューオータニ熊本
第20会場(3F 鳳凰)
熊本県熊本市西区春日1-13-1

演者

前川 聡 先生
滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病・腎臓・神経内科 教授

座長

中尾 一和 先生
京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター 教授

共催セミナー
WEB事前参加登録期間

4月26日(金) 正午まで

なお、本学術集会共催セミナーは整理券制でございます。
当日、会場内に設置される整理券発券機にて整理券をお取り下さい。
詳しくは学会HPをご確認下さい。

<http://www2.convention.co.jp/jds56/>

共催

第56回日本糖尿病学会年次学術集会
オムロンヘルスケア株式会社・オムロンコーリン株式会社



日本人 2 型糖尿病の特徴と治療戦略

腹部脂肪分布の観点から

滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病・腎臓・神経内科 教授

まえ がわ ひろし
前川 聡

演者プロフィール

1981年 滋賀医科大学 医学部 卒業
1985年 滋賀医科大学 大学院医学研究科 修了
1986年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校 医学部 研究員
1988年 滋賀医科大学 第三内科 助手
2002年 滋賀医科大学 内科学講座 講師
2005年 滋賀医科大学 内科学講座 助教授(2007年より准教授)
2010年 滋賀医科大学 内科学講座 教授
現在に至る。

日本人は欧米人に比べBody Mass Index (BMI)30以上の高度肥満は少ないものの、軽度な肥満で内臓脂肪蓄積や脂肪肝をきたしやすく、また血圧上昇や耐糖能障害などのメタボリックシンドロームを発症しやすいことが日米比較疫学研究であるERA-JUMPにより明らかにされている。また、滋賀県医師会により2000年および2006年に行われた約2万例に及ぶ糖尿病実態調査の成績では、BMI25以上の肥満糖尿病の割合が増加し、さらに、肥満症例では血糖管理の目標達成率のみならず、薬物治療にも関わらず血圧管理や脂質管理の目標達成率も低く、肥満を伴う2型糖尿病の治療戦略が今後極めて重要になる。そのため、個々の症例においてBMIのみならず内臓脂肪蓄積を含めた評価が重要となると考えられる。現在、内臓脂肪蓄積の評価は、ウエスト周囲長や腹部臍高レベルのX線CT検査により行われているが、それぞれ精度・再現性の問題、被曝・コストの問題がある。最近、DUAL-BIA法を用いた内臓脂肪測定装置(DUALSCAN)が開発され、腹部の内臓脂肪面積が経時的に観察可能となり、その臨床的有用性が検討されている。我々の施設における2型糖尿病患者の腹部脂肪分布と各種臨床指標との関連についても紹介したい。

肥満を伴う2型糖尿病治療の原則は、食事・運動など生活習慣の是正による減量であるが、エキセナチドなど体重減少効果を示す薬剤、SGLT2阻害薬や抗肥満薬を含めた新規の薬剤開発が期待される。さらに、内科的治療抵抗性、すなわちリバウンドを繰り返す高度肥満を伴う2型糖尿病を合併した症例などに対して、肥満外科治療として腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が先進医療として行われており、体重減少とは独立してインスリン分泌改善効果があることが報告されている。本講演では、肥満2型糖尿病の現状と新しい治療アプローチについても紹介したい。